



世界に希望を生み出そう

Vol. 62

No. 11

第2882例会  
2023年10月3日号

WEEKLY REPORT

国際ロータリー第2580地区

# 東京江東ロータリークラブ

2023~2024年度 テーマ

## 世界に希望を生み出そう

ロータリアンの心に火をつけよう Get the Joy of Rotary  
RI会長 ゴードン R. マッキナリー 地区ガバナー 栃木 一夫

## 伝統と革新

~革新しながら伝統を守ろう~  
クラブ会長 河西 史郎

### 今日の卓話

シニアイニシエーションスピーチ  
**伊藤 三千男 会員**  
**鈴木 隆雄 会員**

### 次回例会案内

オープン例会卓話【プログラム委員会】  
職業奉仕委員会  
各自の仕事について

E-mail : koto.re@sweet.ocn.ne.jp http://www.koto-rotary.jp

### 例会報告

9/5 訂正出席率 7826%

9/19 会員数 23名中 16名

出席率 69.56%

ゲスト 【卓話者】 株式会社キャリアコンサルティング  
管理部経理課 佐々木大輔氏  
【東京東ロータリークラブ】 会長竹川 勝治様  
幹事 佐久間 賢治様 前会長 橋本 更様  
ビジター 【大阪南ロータリークラブ】 米田 秀弥様



### 会長・幹事報告



- 13日(水) 臨海ロータリークラブ 30周年記念例会祝賀会に伊藤海幹事と参加しました。
- 22日(金) 東3クラブカップゴルフに(城東、ベイ、江東)合同コンペ(於:大根カントリー倶楽部) 板倉ゴルフ幹事、鈴木会員、堀会員が参加しました。
- 一般財団法人比国育英会バギオ基金第15回定時評議員会に鈴木会員が出席しました。
- 26日(火) 例会は休会です。
- 27日(水) 東分区分第2回会長幹事会がレバント東京にて行われます。伊藤海幹事と参加しました。

### <委員会報告・その他>

【回覧】ファミリーハウス通信 秋号【配布物】週報NO.11



2023年9月のロータリーレポート【1ドル146円】

合計 56,000円  
累計 564,000円

事務局は午前10時から午後16時まで、囲碁や将棋・談話室として利用できます。掲示板も活用してください

●例会場 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5683)5683 ●例会日 / 毎週火曜日 12時30分~13時30分  
●事務局 / 東京都江東区東陽 6-3-3 ホテルイースト21 東京内 TEL : 03(5632)3777 FAX : 03(5632)3737



世界に希望を生み出そう



# 株式会社キャリアコンサルティング 佐々木大輔 様

管理部 経理課



株式会社キャリアコンサルティングの佐々木でございます。経理という肩書ですが、私にはもう一つの顔があります。子会社であります、株式会社潮流社にて発刊しております、月刊『カレント』にて国会議員の先生方にインタビューをする企画のライターをしています。また社外の活動で、憲政史研究者・倉山満先生のYoutubeチャンネル「チャンネルくらら」にて政治・歴史関連の情報発信をしている番組の司会を務めさせていただいています。

私が現在の活動に至ったきっかけから話をします。私の両親は自衛官でした。私は大学3年生の就職活動の時に、「なぜ両親は自衛官の道を選んだのか」と疑問に思いました。母にその理由をきくと「自分の国を守るのは当たり前だと思ったから」、そう平然と答えたのです。さまざまな学びの中で、次第にその言葉の重さ、深さを知ることになりました。私はそんな両親の後ろ姿を見て、「日本をよくしていきたい」と考えるようになり、私は前職の会社から、「日本をよくするリーダーを輩出する」そんな弊社代表の室館の想いに共感し、キャリアコンサルティングに転職しました

弊社キャリアコンサルティングは、「日本を良くするリーダーを輩出する」ことを目的に、「しがく式」という20～30代の若者を中心にリーダーシップの基礎教育をするサービスを運営しています。「日本をよくしたい」という若者を育てる大前提は、「日本が好き」という気持ちを育てることです。弊社では日本にとって学ぶべき歴史上の偉人を伝える講座や、さまざまな伝統文化を感じられるイベントなどを開催しています。毎年2月11日建国記念の日には「くにまもり演説大会」を開催しています。応募年齢は20代の大学生・社会人で、昨年の応募者数は約1500名。本戦出場者は8名です。自分の身近な仕事や活動を通して、「自分が日本に何ができるのか」を考え、行動してきたことを演説します。本戦に進めなくても、それを考えること自体が導きのことだと考えています。また、目上の方から話を聞く以上に、同じ20代が国のことを考えて行動している姿が、20代の聴衆に大きな刺激となっています。そのように「日本をよくしていきたい」という若者を育てています。

ですが、我々はさらにもう一歩踏み込んで、人を育てていかなければいけないと思っています。私が成し遂げたいことは「目の肥えた国民を育てる」ことです。

私は「日本をよくする」ためにさまざまな活動に参画して参りまし

たが、そこで感じたことは、「なぜ日本をよくする正論が通らないのか」ということです。

現代は特に、さまざまな情報がSNSをはじめ溢れかえっています。その中で、イデオロギーに偏り、自分が見たいもの以外の言論、情報は遮断し、「あの言論人が言っているから正しい」と一方的な情報を鵜呑みにし、正論とは真逆の方向にいつている人も少なくないのではないのでしょうか。それは経済、安全保障、さまざまなかたちで現れていると思います。

自ら学び、自らの頭で正論とは何かを考える、そんな目の肥えた国民を育てなければいけないと考えています。

私はそれを全国議員にも配られている『カレント』を通じて、実現したいと考えています。弊誌の創刊理念は「左右に偏ることなく正しい世論を喚起すること」。創刊者は、東条英機内閣で大蔵大臣を務めた賀屋興宣という人物です。賀屋が入閣した理由は戦争を回避するためでしたが、それが叶わず、財政面でやむなく支えた人物です。戦後、賀屋は正しい意味での開戦責任を感じ、政治家として「日本をよくする」ことに尽力します。特に池田勇人内閣ではいわゆる「所得倍増計画」を裏で支え高度経済成長の実現に貢献しました。池田が経済を優先させたのは安全保障のためでした。当時はソ連が存在し、労働運動、革命運動が起り政府を転覆しようする勢力がありました。経済成長によって国民を富ませ、ソ連の介入を防ぎ、防衛費の増額、高支持率の裏側で憲法9条も骨抜きにしていました。その池田の考えの数少ない理解者であり、政策の支えとなったのが賀屋でした。

『カレント』の内容は論語から政治・外交・教育・軍事など幅が広いのです。それは目の肥えた国民は「専門以上に幅広い教養」が必要だと信じているからです。国民の役割は「政治家の監視」。国民がどんな声をあげ、どんな投票行動をするかによって未来は変わる。国民と政治家の正しい緊張関係を『カレント』を通じてつくり、正しい世論を喚起していきます。そして、「正論はカレントにある」と政治家を振り向かせ、正論が通る世の中にする。これが、私が成し遂げたいことです。

私は皆様のような影響力がある方々にこそ、「目の肥えた国民」として何を語るかが大事だと思っています。皆様にはぜひ、その一翼を一緒に担っていただきたいと思っています。一緒に、日本をよくしていければと思います。

